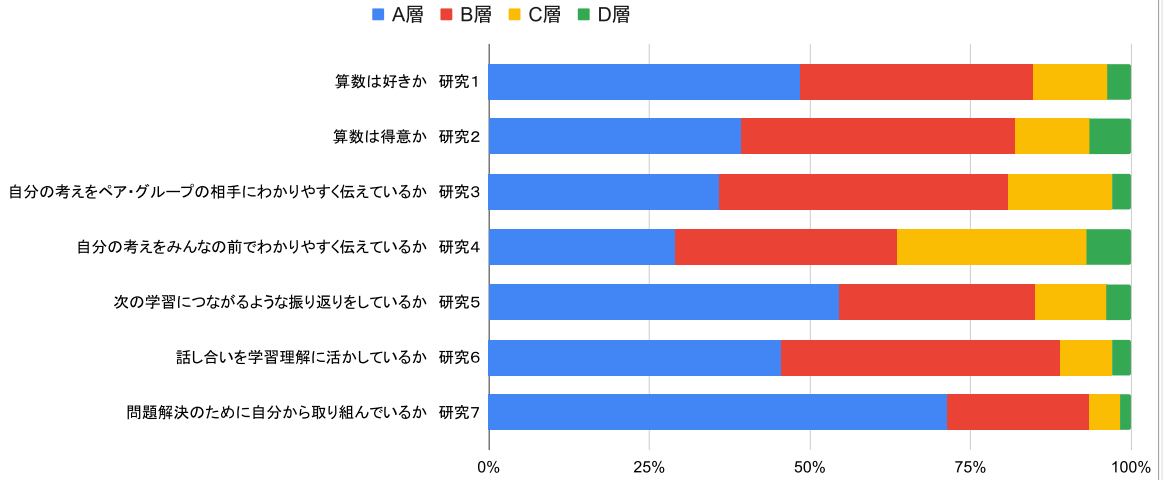


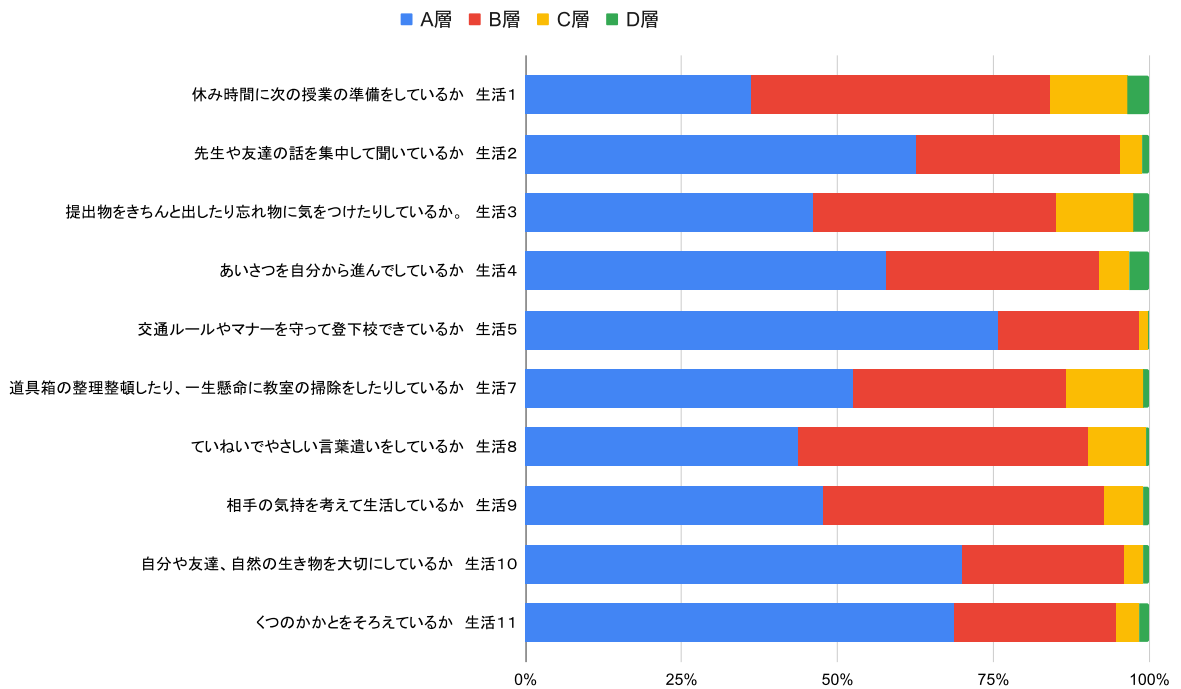
令和6年度 第1回学校評価アンケート(児童アンケート)集計結果と分析

児童アンケート集計結果 1 校内研究について



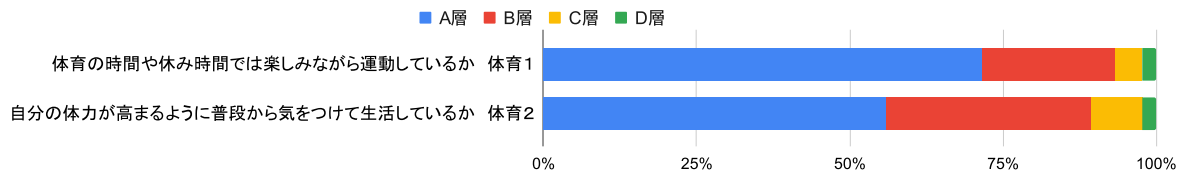
調査項目4「自分の考えをみんなの前でわかりやすく伝えているか」のポイントが他と比べて低いことが分かります。項目3のペア・グループ活動での学び合いは肯定的回答が80%を超えているので、児童が少人数で考えを伝え合う活動への苦手意識は低いものの、多人数の前で発表する場面になると緊張したり、自信をなくしてしまったりすることが考えられます。例えばペアで話し合ったことをペアのまま全体で発表したり、発表する代表者を決めてからグループでの話し合いを始めるなど、少人数での検討から多人数での発表の間に自信をもつことができるような手だてを実践していく必要があります。

児童アンケート集計結果 2 生活指導について



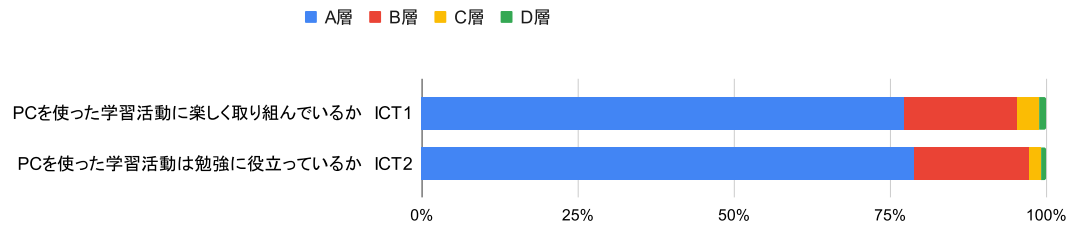
あいさつやマナーなど、他者理解や周りに働きかける生活の意識に関しては肯定的回答が多いものの、授業準備など主に自分自身のことに関する項目ではポイントが低い傾向があります。しかし、靴を揃えることに関しては、自分自身に関する項目の中でも肯定的回答率が高い傾向にあります。今後も学校全体で靴の踵を揃える活動をより一層徹底していくことで、靴の揃え方を起点にして他の生活態度の改善へと波及していくことが期待されます。昨年度に比べ、休み時間に次の準備をしている児童が増えていますが、声掛けをしている教員側の数値と児童の実態に乖離が見られます。整理整頓や次の授業の準備に関する声かけについては、職員全体でも声掛けの意識を今一度高めていく必要があります。

児童アンケート集計結果 3 体育について



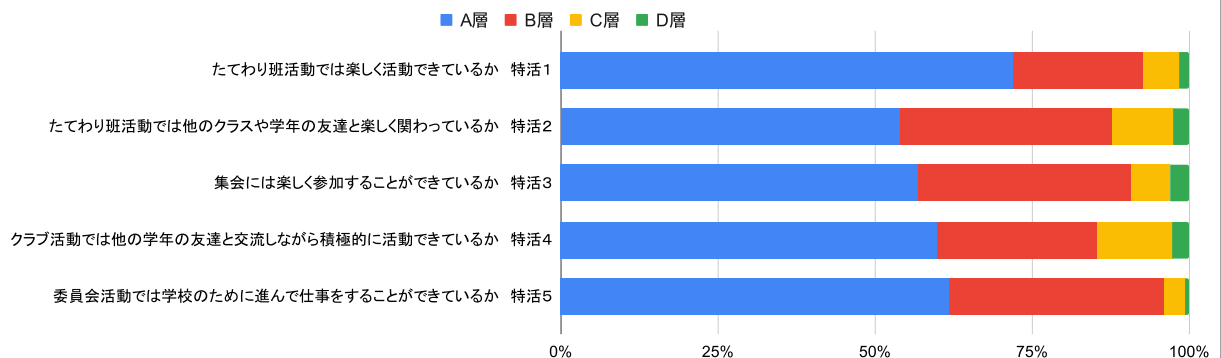
外遊びが好きな児童が多く、校庭を使用できる日には積極的に運動する姿が項目 1の結果に結びついていると言えます。昨年度よりA層の割合が増えているので、今後も継続して指導していきます。

児童アンケート集計結果 4 ICTについて



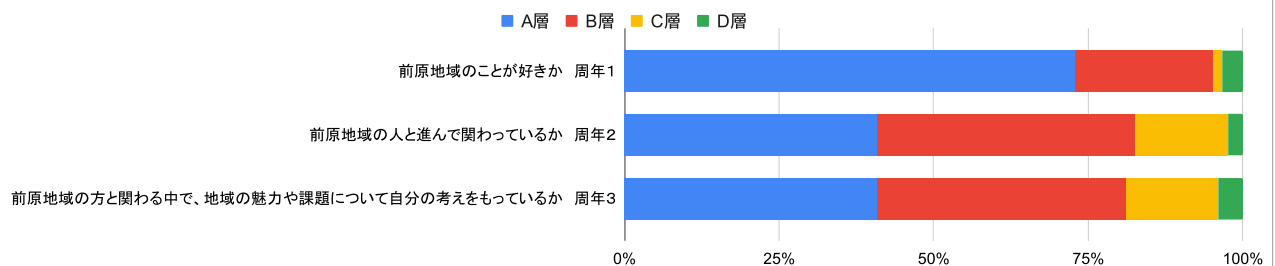
ICTに関する項目はどちらも肯定的回答率が9割を超えているため、GIGAスクール構想に基づいてICTを活用した授業実践が進んでいることが考えられます。ICT機器の活用は今後も必要不可欠なため、校内でのOJT研修などを通してICT機器への活用意識を維持していきながら「文房具のように」タブレットPCを活用できる児童と教員が増えるように今後も実践を継続していきます。

児童アンケート集計結果 5 特別活動について



概ね9割以上の肯定的回答という高い数値が見受けられますが、積極的な関わり方については本当にできているかどうか疑わしい部分もあります。具体例を提示するか、より高い目標を設定し、一歩進んだ特別活動になるよう計画する必要があります。また、その中でも項目2と4の「他の学年と交流」する場面においては、やや低い傾向があります。例えば委員会では同じクラスではなく、異学年で活動班を作り定期的に振り返り活動をさせるなど、他学年の友達とも意図的・計画的に交流していく手だてを授業者が考えていく必要があります。

児童アンケート集計結果 6 周年行事について



令和4年度・5年度に生活科・総合的な学習の時間を校内研究で実践していた成果が、「地域への愛着」という形で項目 1に表れています。項目 2については、高学年では1学期から地域人材との積極的な交流を続けていましたが、低学年についてはトマトの観察や校内探検といった活動が中心で、地域の方々との交流活動が少なかったことがポイントの低さに関係していると考えられます。2学期以降は周年行事も含めて地域人材と交流する回数が増え、前原地域の魅力や課題を発信する児童が増えていくことで、項目 2と3の肯定的回答の伸びが期待されます。